

会員へのお知らせ

第80回学術講演会シンポジウム課題の決定ならびに担当希望者公募について

(開催地：東京都 学術集会長：昭和医科大学 教授 関沢 明彦)

さきに本誌会告により2028年に行われる第80回学術講演会シンポジウム希望課題を会員から公募し、その結果下記の2課題を採用することが決定しております。

つきましては、課題担当者を公募いたしますので、希望者は下記要領によりお申込み下さい。

シンポジウム1(腫瘍)

「婦人科手術を科学する：次世代手術学への挑戦」

〔解説〕

近年、婦人科手術の分野では、解剖学と手術手技を統合し、新たな「手術学(Science of Surgery)」を構築しようとする動きが加速している。鏡視下手術の発展により低侵襲化が進むなか、「術者の経験に依存した技能」を科学的に再検証し、「再現可能で共有可能な技術」へと転換しようとする試みである。出血制御、神経温存、適切な剥離層の選択といった基本手技を理論的に再整理する取り組みは、安全で精緻な手術を実現するための根幹であり、次世代手術学確立への第一歩である。さらに、ロボット支援手術、センシング技術、ウェアラブルデバイス、XR(Extended Reality)、AI画像解析などのデジタル技術の進歩は、手術操作の可視化と定量化を可能にし、技能評価や教育体系の標準化が進み、従来は経験に依存してきた技能伝承を、技術革新に支えられた体系的教育へと転換する環境が整いつつある。加えて、献体外科トレーニングやシミュレーション教育の進展も、客観的な技能評価と安全な教育環境の構築を後押ししている。

今まさに、婦人科手術は経験依存型の技能から、科学に裏打ちされた「学」としての手術へと進化する転換点にある。本シンポジウムでは、解剖学・組織学的基盤から最先端技術、さらには教育・技能評価までを横断的に議論し、科学的根拠に基づく次世代婦人科手術の確立に向けた具体的な道筋を展望する。

〔キーワード〕

婦人科手術、手術学、解剖学、神経温存、低侵襲手術、ロボット支援、デジタル技術、AI、技能評価、手術教育、臨床アウトカム、手術合併症

シンポジウム2(周産期)

「次世代の分娩管理：客観的評価が切り拓く新たな周産期医療」

〔解説〕

分娩管理は、長年にわたり経験値や主観的所見への依存度の高い領域であったが、近年、経陰超音波検査で分娩進行を可視化する手法などの導入により、科学的エビデンスに基づいた客観的所見を分娩管理に取り入れる動きが加速している。このような「分娩を科学する」取り組みは、分娩中および分娩後に生じる異常の予測・予防法の開発にも寄与するものであり、異常発生の早期認知と適切な対応を重視してきた従来の分娩管理を高度化し、次の段階へと発展させることが期待される。また、教育においても、「先人が積み重ねてきた経験や知識に基づく教育」から、「客観的所見や科学的根拠に基づく教育」への転換が進みつつあり、これにより、経験値への依存が少なく、再現性の高い技能継承の実現が期待される。

加えて、近年、患者ニーズの高まりを背景に無痛分娩の件数は増加しているが、これに伴い、産科麻酔

や器械分娩における安全性の確保、分娩合併症への対応といった新たな課題も顕在化してきた。医療技術の進歩や医療体制の充実により、わが国における分娩の安全性は国際的にもトップレベルを維持しているものの、前述のとおり分娩管理にはなお改善の余地が残されている。これらの課題に着目し、分娩管理をアップデートすることで、わが国の周産期医療の質は一層の向上が期待される。

そこで本シンポジウムでは、分娩進行や分娩合併症の予測・評価に関する科学的エビデンスを基盤として、近年顕在化してきた臨床上の課題も視野に入れつつ、経験値や主観的所見に過度に依存しない「次世代の分娩管理」の在り方について議論する。

〔キーワード〕

胎児心拍数陣痛図、経陰超音波検査、分娩進行予測モデル、分娩時肛門括約筋損傷、分娩後排尿障害、無痛分娩、児頭回旋異常、分娩誘発、鉗子分娩、吸引分娩、産科危機的出血、医療 AI、AI 導入、ビッグデータ解析

提出期限：2026 年 11 月 30 日(月)必着

応募方法：申込用紙を本会学術委員会ホームページからダウンロードし、オンラインシステムより提出のこと。

添付書類：関連論文 2 編の別刷をオンラインシステムに添付すること。

応募上の注意

- 1) 日本産科婦人科学会会員であること。
- 2) 同一機関から同一課題についての応募は単数であること。
- 3) 同一会員が二課題以上には応募できません。
- 4) 応募者は単名であること。連名は受け付けません。
- 5) シンポジウムの表題、演者名、抄録内容*、倫理的配慮**、利益相反***など、応募内容については、すべて演者の責任で確認したうえで応募してください。

*応募内容(不採用を含む)、抄録ならびに発表内容に不正(データの捏造、改ざんや盗用)が発覚した場合、学術講演会発表に関する内規に従い処分されることがあります。

**「ヘルシンキ宣言」、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(文部科学省・厚生労働省・経済産業省)」、「遺伝子治療等臨床研究に関する指針(厚生労働省)」、「ヒト受精卵の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針(こども家庭庁・文部科学省・厚生労働省)」などの医学研究に関する指針、本会の倫理に関する見解を遵守して下さい。また、臨床研究においては患者個人情報保護に十分に配慮して下さい。抄録上明らかな重大な違反は不採用となります。シンポジウム演者採用後、発表時もしくは発表後に重大な違反が発覚した場合、学術講演会発表に関する内規に従い処分されることがあります。

***臨床研究(ヒトまたはヒトから得た検体に関する研究)に該当する場合、本会の利益相反に関する指針、同運用細則に従い利益相反を申告して下さい。同指針違反者は同指針・運用細則に従い措置を受けることがあります。

2026 年 7 月

公益社団法人日本産科婦人科学会

第 80 回学術集会長 昭和医科大学 教授 関沢 明彦